神戸大学能楽部・部室の片付けについて　　2022年　9月　昭和54年卒　伏見和政

本年6月11日開催の凌霜謡会にて、神戸大学能楽部・部室の宝生会との共用について、当日ご出席の皆さんにご了承頂きました。宝生会は30数年にわたり休止状態にありましたがＯＢ諸氏の、並々ならぬ努力により復活を遂げ(現在は10名近い部員を数え)、クラブ活動を活発に行っています。

後日、宝生会との話し合いの結果、能楽部は月・火・木・土、宝生会は水・金を利用日とすることになりました。ただ部室には能楽部の着物や袴をはじめ多くの備品がありますので、ＯＢの有志で部室の現状確認と、新たに部員が入った際、気持ちよく利用できるよう整理しようという事になりました。

7月19日、凌霜謡会世話役の安藤さんの働きかけで川邊さん、飯田さん、高島さんと伏見で部室訪問しました。宝生会のＯＢ、堀口さんが神戸大学内の凌霜会事務局にお勤めなので、彼を訪ねるという事で大学訪問させて頂きました。新型コロナ感染防止のため、クラブ活動が行えない時期だったからだと思うのですが、部室の周りは雑草生え放題、ごみも結構散乱していました。部室に入ると、とにかく物が多いのに驚きました。壊れた冷蔵庫、扇風機、破れた座布団は、即、廃棄対象としました。

私が学生だった45年前と比べると着物や、謡本、扇も格段に増えていました。先輩から頂いた貴重な着物ですので残しておきたい思いが強かったのですが、今回処分しなければ新たに入部した学生達には、部室の備品を捨てるという判断はできないだろうという事で、変色していたり、破れたりしているものは名残を惜しみつつ飯田さんや高島さんに判断して頂き、女性用着物３、袴１を廃棄処分としました。その結果着物は、男性用黒紋付６、女性用黒紋付６、女性用色物7、袴は縞８、無地４、柄物９、さらに帯は男女計12本の在庫となり、種類別に分別して和ダンス一つに納めて頂きました。

謡本の中には、大成版以前の古い「五番綴」が木箱に整然と入った状態のものが2セットありました。恐らく宇治先生がお使いになっていたものもあると思います。学生さんたちには無用だと思いましたが、畏れ多くて捨てられませんでした。この日は大まかな片付けと大学内の廃棄場に捨てられるものを処分して帰りました。部室の扉が開け閉めしにくかった事と、大物の冷蔵庫の廃棄が出来なかったので、次の機会を持つことにしました。

2回目は8月30日に集合しました。川邊さん、安藤さんは開け閉めが非常に困難になっていた、扉の修理を担当して下さいました。サッシを分解して滑車を付け直すという難作業を決行されました。

高島さんと飯田さんは着物・袴の分類・整理や大物の冷蔵庫の処分をして頂きました。
作業途中に、宝生会ＯＢの堀口さん、伊藤さん(亡くなられた尾島さんの同期でお知り合い)が来られ謡本や、書籍を「宝生会スペース」に整理されていました。彼らは観世流でいうところの「名誉師範」の位置づけで、週 2 回学生達に謡・仕舞を指導しているとの事です。師範の先生の指導も月数回あるとの事ですが、先輩達の熱意が、クラブ活動を支えているという事を実感しました。
お昼から夕方近くまで作業した結果、写真でご覧頂けるレベルまで整理できました。
この素晴らしい稽古舞台を、1日も早く学生達に使ってもらいたいと思いながら、部室を後にしました。

写真①　部室の入り口　雑草は除去しました。
この扉の開け閉めが大変！
川邊さん、安藤さんが扉の修理して下さいました。

写真②　種類別に整理された和ダンス
上から女性用着物(2 段)男性用着物、袴(３段)と
整然と並んでいます

写真③　ちゃんと防虫剤も入れて頂きました

写真④　舞台用の仕舞扇も 30 数本あります。
(扇箱にラベルを張って整理しました)
私らの頃にはなかった黒骨の修羅扇もあります
近年新入部員には新品の稽古扇と扇袋をﾌﾟﾚｾﾞﾝﾄ
しています。

写真⑤　入口入って左側の「宝生会スペース」には
数々の書籍・謡本が並べられています。
(8 月 30 日に搬入されていました)

写真⑥　片付け後の部室
足袋が吸い付くような、素晴らしい感触の
稽古舞台が、学生達を待っている！
加えて備品の中には宇治先生のお宅から
長刀、床机、拍子盤、鹿杖(山姥用)など
貴重な遺産が寄贈されています

さぁ！　準備は完了、これからが本番。

以　上